

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2178 号

がん終末期患者を対象とする褥瘡発生予測因子の探索

Predictors of the development of pressure sores in the end-stage of cancer patients

桑村 淳子 (くわむら じゅんこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

がん終末期には身体機能の低下や栄養状態の悪化がみられるが、これらは褥瘡発生要因と重複するため、褥瘡の発生予測が難しい。日本の病院では褥瘡リスクアセスメントスケールとしてブレデンスケールを用いることが多いが、このスケールには身体可動性や栄養状態の指標も含まれている。そのため、本研究では、がん終末期でもブレデンスケールで褥瘡発生のリスクがアセスメント可能か否かを後方視的に検証するとともに、さらに精確な褥瘡発生予測を可能にする他の客観的指標を探索した。

調査項目はブレデンスケールのほかに日常生活動作と血液データとして、褥瘡発生 20 日前、15 日前、10 日前、5 日前、発生当日の状況を、褥瘡が発生しなかった患者の死亡 20 日前、15 日前、10 日前、5 日前、死亡当日の状況と比較した。また変化量をみるために、上記調査日の 5 日間での変化も調査項目とした。

ブレデンスケールは合計点で比較した場合も各細目で比較した場合も差がみられず、使用できない可能性が高いことがわかった。日常生活動作の指標として Barthel Index の各細目を使用した。有意な差はみられなかった。しかし、血液データの褥瘡発生 15～10 日前 (5 日間) の赤血球数、ヘモグロビン濃度、およびヘマトクリット値の増加量には有意な差がみられ、これらを新たな指標とできることが示唆された。